

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4272300247		
法人名	有限会社 カウトタイトル		
事業所名	グループホーム よこせ	ユニット名	
所在地	長崎県西海市西海町横瀬郷2762番地2		
自己評価作成日	2023年 9月 25日	評価結果市町村受理日	2023年 12月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijevosyo_index=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijevosyo_index=true</a>
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フロー薬院2F		
訪問調査日	2023年 10月 3日	評価確定日	2023年 11月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

この西海市には自然豊かな環境の中海や山に囲まれ横瀬という地区は歴史的にも深く愛されている地域でもあり、地域住民の方々も温かく見守って頂き、気軽にお声掛け頂いたり、季節の果物や野菜の差し入れを頂いたりしてもらってばかりで今後はこの施設で活かした知識を皆様にも還元し、この地域に開かれたホームを目指すと共に、この横瀬地区の皆様と共に少しでもお役に立てればとの思いで、日々努めております。また入居者様もこの慣れ親しんだ地域で過ごされ、地域交流にも今まではコロナ禍でできていなかったことが、徐々にできるようになりましたので今後は感染状況を見ながら積極的に参加し、年々向上心を持ってこの地区の活性化のほんの一部にでもなればとの思い出今後も精進して行きたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームよこせ”は2005年に開設している。運営者は職員の実状を理解し、様々なサポートをして下さる。日々の業務は管理者が中心となり、職員個々の長所を丁寧に把握し、質の向上に向けた方策を検討している。コロナ禍の大変な3年間を乗り越え、ようやく外出・外泊等の希望を叶えることができるようになり、家族と一緒に法事や外食を楽しまれる方もおられる。運営推進会議も対面開催が再開し、少しずつ地域交流が戻ってきている。ご利用者は日々ゆっくりとした時間を過ごされ、リビングや玄関、廊下等のソファでくつろぎ、家事等の役割も担って下さる。職員が畑仕事や草刈りをしていて、「一緒に手伝うよ」と言って下さる方もおられ、ご利用者も畑で野菜を収穫し、旬の食材も採り入れながら、冬はお刺身を楽しまれている。日々のケアの在り方も振り返り、介護者優先になっていないか、職員の声かけが尊厳に繋がっているか等を確認し、更なる質の向上に向けた話し合いを続けている。長年、医療連携の強化も模索してこられ、管理者は訪問看護や住診が行える病院との連携強化を続けており、ホームでの終末期ケアの在り方も前向きに検討している。日々の体調確認を丁寧にし、今後もご利用者個々の日々の役割や楽しみを増やしていくと共に、地域貢献（地域交流）を続けていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事務所内や休憩室にホームの理念を職員の目の留まる場所に掲示してあり、常に心に置き毎日の業務や会議等で理念を共有して実践につなげています。</p>	<p>コロナ等の感染状況が安心できる状況ではないが、ご利用者の思いや性格、生活歴等を職員は理解し、理念である「共に助け合い共に生きる」に繋げている。理念の中の「出会えたことの喜びとこれからの一生を大切に」した関わりを続けている。</p>	<p>今後も理念にある「人格・人権を尊重し」を共有し、トイシ誘導等を含めた日々のケア状況を振り返り、更なるケアの質の向上に努めていく予定である。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>買い物や散歩時に近所の方や地域住民の方にお声掛け頂き会話し、交流を行ってます。</p>	<p>地域の方から野菜や果物の差し入れがあり、地域行事（元旦マラソン応援、市道清掃等）、消防合同訓練等に参加している。ご利用者が手作りした貼り絵を保育所の園児にプレゼントし、園児からメッセージを頂いたり、保育所行事をタイムリーにオンライン配信して下さり、楽しいひと時を過ごすことができた。今後も保育所との交流（運動会、夏祭り、芋ほりなど）ができることを願っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>今年度もコロナ禍の状況が落ち着かず、実施することができず、市道清掃等で地域貢献させて頂いていると思っています。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年度は対面での会議を実施していますが、まだまだ十分とは言えませんが、今後は、サービスでの困難事例等を報告し、サービス向上に努めたいと考えています。</p>	<p>コロナ禍は書面会議であったが、参加者の方に報告書を持参し、意見交換等を続けてこられた。2023年度は対面開催が再開でき、議事録に日々の暮らしの写真（玉ねぎの収穫風景）等も載せている。市の方にも直接質問でき、すぐに対応頂けるので有難く思っており、他の参加者の方々からも色々なご意見を頂いており、対面開催の良さを再確認できている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>積極的に取り組んでおり、運営推進会議をはじめ、今年度は運営指導と指定更新の年でもあり、ホームでの取り組みについて、報告を行っております。</p>	<p>管理者が市役所を訪問し、災害対策の補助金や消火栓等の手続き、運営指導の書類内容を相談し、アドバイスを頂いている。介護支援専門員も地域包括に空室を情報提供し、必要時は相談している。今後も運営等の不安を感じる際は市役所に相談し、市からの依頼があれば積極的に協力させて頂く予定である。</p>	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定期準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議等で周知し、理解を深めると共にホームではアニマルセラピーの一環で猫を飼っており、なるべく外へは出さないために玄関の施錠を行っております。	猫が外に出ないために玄関の施錠をしているが、ご利用者はホームの畑で野菜の収穫を行い、散歩を楽しまれている。「身体拘束は絶対にしない」方針であり、認知症の理解を深め、基本理念と身体的拘束等適正化のための指針で日々のケアを振り返っている。長崎県権利擁護研修も受講し、2023年度内に虐待防止委員会も開催予定であり、更なるプライバシー確保に努めていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	今年度発足させ、スタッフ会議等で勉強会を行い今後も周知徹底することで虐待防止に努めたいと考えています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当ホームでは対象の方はおられませんが、今後も権利擁護の制度について学んで行きたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込時はパンフレット等でご説明させて頂き、入居契約時にはお時間を頂き十分にご説明させて頂きますが、後日疑問点や不安に思われことがあれば、丁寧に対応させて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の思いや意見を聴ける体制は常日頃から気に留めており、スタッフ会議等で情報の共有に努めています。また、もっと気軽に意見・要望を頂ける環境作りも大切と考えています。	市内のコロナの感染状況に応じて、家族と玄関や窓越しの面会、居室での面会をして頂き、日々の生活を報告している。ホーム便りも作成し、電話での情報交換も続けており、日々の生活や行事等の要望を伺っている。受診時に家族と情報交換できる方もおられ、体調変化時の対応方法を検討している。外出や外泊、法事参加の希望等も受容し、家族と一緒に叶えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議を開催しており、意見や提案を求めています。十分とは言えないのが現状で、今後も意見や要望を出せる工夫が今後の課題だと考えています。	管理者が主となり、職員個々の良いところを引き出し、更なるスキルアップに繋がるように努めている。2023年度に指定更新があり、職員間で実状に応じた課題を集約し、月1回の「掃除の日」を設けたり、職員の研修の機会が増えるように努めてこられた。運営者は明るいお人柄で、職員のストレスを理解し、職員の希望に応じた優先順位の説明もして下さる。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制については、スタッフ一人ひとりに十分に配慮しており、とても働きやすいと感じていますが、個々の向上心も持って質を高める努力が今後の課題だと感じています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を個々のスタッフによって必要な研修を受けてもらうように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状は、十分とは言えませんが少しずつですが、同業者との交流も交え勉強会への参加を行っています。今後は、積極的に参加し、サービスの質の向上に努めたいと考えています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と十分に話し合い困っていることや、不安に思っていること要望等の聞き取りを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からも何度も聞き取りを行い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント収集を十分に行い、スタッフ間で情報共有に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何が出来て、何が出来ないか(困っているか)を見極め、日常生活の中で入居者様とスタッフが共に助け合い、生活で楽しみを持っていただける努力を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活状況をお伝え報告し、ご家族様にご協力頂き、共に支えていく関係づくりに努めています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中でご本人の大切な方々や生活されていた馴染みの場所などを盛り込んで昔の記憶を忘れてしまわない様に努めています。	日々の会話で生活歴や馴染みの場所等を教えて頂いている。コロナが5類になり、家族と受診後に自宅で食事をされたり、馴染みの店で食事をされたり、外泊される方もおられる。運営推進会議で知り合いの方と再会できた方や、受診の際に馴染みの方と再会し、喜ばれている。コロナ以前は地域行事や馴染みの商店にお連れしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立させてはいけないうるが務めではありますが、集団（多人数）が苦手と感じている方もいらっしゃるのが現状であり、一方気の合う方、すぐに喧嘩になってしまう方の間に入って会話し、関わり合いに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、これまでの関係性は変わることなく、ご相談等頂ければ必要に応じて対応させて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを各担当者がしっかりと聞き取りを必要時に行い、希望や意向の把握に努め、困難な場合はご家族様に話しを聴いたりしています。	日々の生活の中で何気ない会話や仕草、表情等をスタッフ間で共有している。ご本人の特技、趣味等も把握し、「美容室に行きたい」等の要望を家族と一緒に叶えている。野菜作りが趣味の方は、種を一緒に買いに行かれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントとして記録し記載しているため、いつでも確認し把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日々の状況・状態を記録し、最も重要事項は申し送りとして記載し、全職員が把握できるように努めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様はもちろん、主治医の意見を聴きながらサービス担当者会議を実施し介護計画を作成しています。	介護支援専門員、管理者、スタッフ全員でアセスメントしている。生活歴（仕事・趣味・特技等）と共に、洗濯・買物・調理などを含めた能力や意欲等を把握している。アセスメントの各活動の一番右に「ご本人の思い」（「畑で野菜を育てたい」「洗濯物をたたみたい」「編み物をしたい」）等を記載し、介護計画に繋げている。介護計画には移動時の留意点なども記載しており、前回の外部評価以降、日課計画表も詳細に作成されている。	今後も認知症を含めた症状と介助が必要な理由等をアセスメントに追記するとともに、アセスメント用紙のレイアウトとアセスメントの手順を振り返り、介護計画に繋げていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録のもれ等があり見過ごすこともあるため、その都度、情報の共有を図ることに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の思いに添えるように努め、その方に合うサービスを常に話し合っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	交流が滞っていましたが今後は積極的に働きかけ、感染状況を確認しながら努力していきたいと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院への受診を定期的に行っており、その都度、心身の状態の変化があった場合は主治医の指示を受け支援に努めています。	日々の体調で気になる事は家族に連絡し、早期受診に繋げるように努めている。受診時は職員や家族が同行し、日々の体調などを主治医に報告している。体調に応じて減薬に繋げることができ、日々の生活での取り組み（「自分のできることを壁に貼りなさい」）等、具体的なアドバイスを主治医から頂いている。歯科医師（歯科衛生士）の往診もあり、口腔ケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護師が居ないため、必要時にかかりつけ医の看護師や主治医よりアドバイスや指示を受け支援に努めています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時、スタッフが同行し情報共有や相談を行い、時には電話等で状態報告のうえ指示を受けたり、入院中の方の情報は病院関係者との多職種連携に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様にご説明をし理解を頂いており、必要に応じて主治医に相談を行い、ご本人・ご家族・ホーム内でも話し合いを行うように努めています。	「できるだけ長く、ここで暮らしたい」と希望する方が多い。現状は往診体制が無く、看護師が勤務しておらず、ホームでの看取り支援はできない事を入居時に説明している。医療ニーズが高い方は適宜主治医に相談し、必要時は特養の入居手続き支援をさせて頂いている。入院（入所）ぎりぎりまで家族と協力し、誠心誠意のケアが行われている。管理者が主となり、訪問看護や往診が行える病院との連携強化を続けており、ホームでの終末期ケアの在り方を前向きに検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルをいつでも確認できるようにして対応していますが、今後も訓練等を行い備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	今年度も、消防訓練では地域消防団や地域住民の方々のご協力を頂きながら合同訓練を行う事が出来ました。今後は災害時の訓練も机上訓練等を入れて対策に努めていきたいと考えています。	災害に備え、飲料水、飲料水以外の水、米、レトルト米、食料（缶詰、カップ麺等）、懐中電灯、停電時の補助電源（45分使用可能）等を準備し、電気水道工事業者「やまでん」から発電機を貸与する手配もできている。防災チェックを毎日行い、雪対策で貯め水等もしており、毎年11月9日（防災の日）は、消防団や地域の方と夜間（19時）の訓練を行っている。隣接する道路に消火栓が設置され、消防団と連携してホースを設置予定であり、BCP（事業継続計画）に繋げていく予定である。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時の声掛けの振り返りを行っており、難聴の方もおられるためつい他の入居者様の前で、プライバシーに欠ける発言をしているのが現状で、今後、改善できるように全職員で努めています。	家庭的な雰囲気大切にしながら、慣れ合いになり過ぎないように留意している。方言も使いながら、笑顔で丁寧な言葉遣いを心掛けているが、トイレ介助の際の声かけ等を反省されている。今後も他の方にわからないよう、日々の声かけに配慮していく予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	提案などは行いますが、最終的な決定はご本人に行ってもらいます。意志を尊重するためにしっかりと傾聴を行うように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体が当たり前であるが、つつい介護者優先になってしまっていることも現状でありますので、今後もご本人に沿った生活を提供できるように努めます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切りや耳垢取り、必要に応じて散髪など行っています。入浴時に洋服を一緒に選んだりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理の下ごしらえをして頂き、季節に応じて行事食メニューを提供し、楽しんで頂いていると思います。	食前に嚥下体操を行い、嚥下状態に応じて刻みにしている。管理栄養士が作成した献立を一部活用し、料理内容の見直しも適宜行っており、社協の管理栄養士に献立チェックを依頼している。冬は刺身も提供し、刺手が苦手な方は煮つけにしている。畑が得意なご利用者もおられ、芋や大根と一緒に収穫し、ツワの皮むき、じゃが芋の皮むき、饅頭作りとともに、日々の下膳、テーブル拭き、茶碗洗い等をして下さる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に加えて10時と15時の水分補給などを積極的に行い、その日の摂取量の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアが好ましいところですが、全員がされるわけではなく、必要に応じては歯科往診にて対応して頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いてその都度他の職員との声掛けなどで適宜トイレ誘導を行っています。またその人の排泄パターンの把握に努めています。	失禁予防体操を行い、陰部清拭を毎朝している。下着を着用し、排泄が自立している方もおられるが、尿便意の把握が難しい方もおられ、ご利用者個々のしぐさ等を察知し、個別のトイレ誘導を続けている。失禁状況に応じ、いきなりリハビリパンツに変更ではなく、少量用のパッド使用等の検討も続けている。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防と対応は十分とは言えず、特に運動の働きかけが出来ないケースが多く薬に頼っていることが多いです。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設けており、拒否などがあつた時は、無理強いはいしない等対応を行っています。	お風呂好きな方が多く、湯舟に浸かる方も複数おられる。ご本人の希望や医師の指示でシャワー浴の方もおられ、できる範囲、ご自分で洗われている。ご自分のシャブーを使用する方もおられ、入浴時は職員との談笑や歌を楽しまれ、菖蒲湯や柚子湯等も楽しまれている。羞恥心に配慮し、短時間入浴を希望する方にも個別に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を崩さないように配慮しながらお昼寝の時間を取り適度に休んで頂き、活動時には体を使いメリハリのある生活を心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬が変更したりした時は、職員間でも共有しその都度対応を行っています。また、服用の仕方もかかりつけ薬局との連携を取り色々工夫を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何かできる事（手伝い等）を考え、ひとまず行って頂き、役割のひとつを担って頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で十分に対応できていませんでしたが、たまにご家族様と外出を行ったり食事に行かれたりと増えており、今後もドライブ等も増やして、楽しんで頂けるように努めて行きたいと考えています。	長閑な環境であり、日向ぼっこや散歩、畑で野菜の収穫をされている。近くの公園で花見（桜・秋桜等）等を楽しまれ、近くの船着き場へのドライブやエテナ等で買物をされている。コロナが5類になり、家族と美容室や外食（大島の地元の馴染みの店）、親戚の法事に行かれる方もおられる。コロナ以前は地域の祭りを楽しみ、馴染みの商店の特売日に砂糖や味噌の買物と一緒に行かれていた。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分で管理されている方はおらず、たまに買い物ドライブとして一緒にお店の中に入って見て楽しまれています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へこちらからお電話を行い電話口で会話を楽しまれたり、ご本人が書かれた手紙を面会時に見て頂き、涙されていました。今後もこのような支援を努めていきたいと感じています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下にソファを設置し、お好きな場所でゆっくりと流れる時間に身を任せ過ごされており、今後も入居者様が心地良い空間で過ごして頂けるように環境整備にも努めていきたいと思っております。	朝は窓を開けて喚起を行い、西日対策で日差し除けカーテンを利用し、空気清浄機や加湿器等を活用している。大掃除の日も作り、外の草取りも続けている。テレビが好きな方や苦手な方もおられ、ご利用者同士の関係にも配慮し、リビングのテーブルの配置を工夫している。職員とゆっくり会話し、日々の活動（洗濯物たたみ、調理、テーブル拭き等）と一緒にやっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あらゆるところにソファを設置し、ひとりで使用されてゆっくり過ごされている場面をよく見かけます。今後環境整備や居場所作りを行って行きたいと思っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持って来て頂いたりして対応できておりますが、全員とは行きませんので今後もご家族さんにもご協力頂ければと考えています。	家族の写真や家族からの寄せ書きや手紙、お孫さんの書いた似顔絵等を飾られている。馴染みの棚・机・タンス・布団・椅子・枕・化粧品・テレビ等を持ち込まれ、テレビで陸上競技、高校野球や相撲等を見られる方もおられる。ご利用者が1つの居室に集まり、ベッドに座って会話を楽しめる時もある。職員は「掃除」を意識し、環境整備に活かすように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活ができるようにタオル畳みや野菜の皮むきなどの作業をして頂き、役割を持って生活ができるように努めております。		